

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1112
施設名	田端聖華保育園
施設所在地	北区田端1-22-2
法人名	社会福祉法流山中央福祉会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

積み木

<テーマの設定理由>

豊かな表現活動ができる積み木遊びについて、改めて素材に触れることから積み木そのものへの関心を高め、さらに想像・想像力を高める活動を広げられると考えた。また、共感・協働といった、子どもたち同士の関わりにも良い機会を作ることが期待されると考え、設定した。

2. 活動スケジュール

【第1回】 活動日 2024年11月12日（火） 10：00～11：30
【第2回】 活動日 2024年12月18日（水） 10：30～11：30
【第3回】 活動日 2024年12月26日（木） 10：00～11：30
【第4回】 活動日 2025年2月25日（火） 10：00～11：30 16：00～17：30

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・レンガ積み木（22箱）・デュシマ積み木セット（3セット）・ジュエル積み木・アクリル積み木・半球積み木・スケーラ・ミニドール・シュライヒ・動物積み木・シフォン布

ホール、または室内の広いスペースを使い、子どもたちが自由に積み木に触れられるような設定をした。また、午前と午後に続けて活動できる時間を設けた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

普段の保育室の中にあり、身近な素材の積み木について、どんなものからできているのか、触ってみた感触なども踏まえて問いかけて、どんなことができるのか、どんなものを作ってみたいかなどの話し合いを行った。

積み木に触れる活動は、子どもたちの話し合いから決まったテーマを設定したものや、その活動を経て、自由に作りたいものを表現する活動を少人数のグループごとに行った。

また、作り上げた作品を異年齢の子ども同士でも遊ぶ機会も作り、さらに積み木遊びへの関心が高まっていたり、遊び方もその時々で様々な表現を行っていた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・R「塔をつくりたいな。だんだん細くするにはどうしたらいいだろう。」友だちと、試行錯誤しながら積み木を積んでいた。なかなか積みあがらないところに、保育者が「こんなものもあるよ。」と提案したのは、空の箱。箱を土台にして丈夫にすることを発見し、積み木で上の方を積み上げていた。

・ライオンキングの世界を表現している中、K「罨を作った。スカー（悪者）を倒す。」丸い積み木を押すことで下に落ちるような仕掛けを作り出し、動きのあるストーリーを表現していた。保育者はそのストーリーに耳を傾け、一緒にその世界観を感じた。罨として作っていた崖の上の仕掛けがうまく落ちるように調整していて、保育者自身も積み木が『静』だけではなく『動』を表現できることに気づいた場面であった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

すくわくの活動を通して、以前から積み木遊びに関心のあった子どもは、さらにダイナミックであったり、詳細な表現ができるようになった。これまで積み木遊びに関心が低かった子どもたちも、自分のイメージしたものを積み木で表現することで、普段の遊びの中でも積み木に触れる子どもが増え、子ども同士の関わりや、イメージを共有する楽しさを感じていることに気がついた。

子どもの遊ぶ様子や、つぶやきに耳を傾けることにより、子どもたちの関係性、遊びが発展していくことに気がつき、子どもたちのひらめきに保育者もたくさんの気づきを得ることができた。また、それを職員間で共有し、意見交換をすることで、保育者自身も積み木遊びの楽しさを感じることができ、今後の活動への探究心につながった。